

官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）審査・評価委員会  
新 SBIR 制度加速事業分科会（第2回）概要

- 日 時：令和3年9月14日（火） 12:00～12:40
- 場 所：内閣府中央合同庁舎第8号館6階及びオンライン
- 議 事：
  - （1）官民研究開発投資拡大プログラム（PRISM）新SBIR制度加速事業における評価項目・評価基準について
  - （2）その他
- PRISM 審査・評価委員会 委員（敬称略）
  - ＜新 SBIR 制度加速事業分科会＞
  - ◎上山 隆大（総合科学技術・イノベーション会議 常勤議員）
  - 東出 浩教（早稲田大学ビジネススクール（商学研究科）教授）
  - 琴坂 将広（慶應義塾大学総合政策学部准教授）
  - 永田 暁彦（リアルテックファンド 代表、株式会社ユーグレナ取締役副社長）

※◎は座長、全員出席

【概要】

新 SBIR 制度加速事業の評価項目・評価基準案について事務局から説明。評価項目・評価基準案について審議した結果、概ね原案通り決定。主なコメントは以下のとおり（フェーズ2、3の評価に関するコメントについて、今年度実施するフェーズ1の進捗を見つつ、フェーズ2の開始前に評価項目の内容の見直しを予定。）。

- ・研究開発成果（POC）を追っていく評価にした方が良い。
- ・どのような人材、資金が事業の実行に向けて付いてきたのかが分かるようにした方が良い。研究者と経営者のマッチが重要。
- ・単純な売上成長よりも、各省庁のニーズに基づいた研究開発が促進され、それが各省庁に採用される実績が重要。相互連携に留まることなく、ニーズに基づいた製品が出てくることや、各省庁に採用されるまでの成果が重要。
- ・研究、事業化ごとにフェーズにおけるリソースの調達しやすさ、仕方が違うため、どのフェーズまで、どのラダーの上り方でクリアしたのかを縦・横マトリックスで見えていった方が良い。研究者スタートの方が、フェーズ3に移行する難易度が上がると思う。最終的な指標の達成に対してすべて平均化するのではなく、前段階からの目線を導入した視点が必要。長い一連の中で見ていく評価軸が重要。
- ・定量的な指標について、まだベンチマークが定かではないが、今後ある程度スタンダードが出てくることを期待。